

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200183		
法人名	株式会社マザアス		
事業所名	マザアスホームだんらん柏・増尾台		
所在地	〒277-0052 千葉県柏市増尾台2-31-70		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区一番町6-4-302		
訪問調査日	平成28年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の資源を活用し、地域とのつながりを大切にしている。
例えば傾聴ボランティア、絵てがみボランティアなど近隣に住む方に依頼したり、町会の祭りや防災訓練に参加し、交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域とつながりながら暮らし続けられるよう、入居者が地域の一員として日常的に交流する機会を多く設けている。ボランティアの協力により作成している絵てがみ作品を地域の文化祭に出展し見に行ったり、ホームの畑で採れた里芋とさつま芋を使った芋煮会を行ったりして、入居者が家族や近隣の方々と交流する生き生きとした様子は事業所のホームページでも伝えられている。また外出支援にも力を入れており、入居者の身体状況や希望に合わせ車利用と電車利用にわかれて外出するなどの様々な取り組みは、家族にも大変喜ばれ感謝の声も聞かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作り、事務所、玄関にも掲示し全職員が理念を共有、時々理念に沿ったサービスが出来ているか確認している。	事業所独自の理念を事務所と玄関に掲示し、いつでも振り返り確認できるようにしている。理念については職員会議の中で周知しているほか、イベント開催中でも職員に声をかけ、日々のケアに活かすように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と共に地域の催し物に積極的に参加している。マザアスホーム柏・増尾台の季節の催しに地域の方を招くことや近隣での買い物、食事会など地域の資源を利用している。	事業所のイベントなどの情報は民生委員が回覧に載せて地域に向けて発信している。イベントに地域の方をお招きしたり、入居者が地域の行事へ参加したり、交流できる機会を多く提供し地域の一員としての生活を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の買い物やレストランを利用し、店の方との交流などから、理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の運営推進会議計画をもとに、2ヶ月に一度会議を行っている。そこで得た意見をサービス向上に活かしている。特に地域の方との関わりが増えるよう地域の方に呼びかけている。	運営推進会議は隣接する小規模多機能ホームと合同で定期的に開催し入居者にも参加してもらっている。会議での意見や要望を積極的に取り入れ、サービス向上に活かしている。玄関には議事録が置かれ、誰でも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	柏市グループホーム連絡会の会員になり、市から情報を得る事や意見を取り入れ、サービスの向上に繋げている。	市役所では定期的にグループホーム連絡会が開催されている。ホーム長が出席して情報共有しており、地域包括支援センターとは独居高齢者の見守りなどについても意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護委員会の行う勉強会に参加している。その他、日中は玄関等を開錠する等、身体拘束に関する知識の理解を会議に取り入れ、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	本部で開催される身体拘束研修へは職員の半数以上が参加しており、具体的な内容についての知識を深めている。研修参加後は事業所の勉強会で全職員への周知と理解を促し、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	柏市主催の研修会に参加することや、その他研修や資料を事務所に置き、学べる環境を整えている。また、人権擁護委員会のチェックを受けることや職員が中心となり会議で話し合いをする等、全職員で虐待を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加している。必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、家族・入居者代表者が参加して、意見を直接聞く機会を持っている。また、来館時等、意見を聴く機会と捉え大切に考えていることを、意見箱を設置して要望・意見を伝えやすい環境を整えている。	運営推進会議や面会時に家族からの意見や要望の把握に努めており、記録に残している。メールや電話でのやり取りからも必要な事項は記録し、職員間で周知するとともに運営に反映できるようにしている。	今回行った家族アンケートでは、日中の入居者の過ごし方についての家族からの具体的な提案が聞かれている。職員間で検討し、家族に対してもフィードバックすることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上の会議を行い、意見や提案を聞く機会を持っている。また、その意見や提案を管理者会議の検討事項に加える等、職員の意見や提案を反映させている。	毎月の職員会議では、職員の活発な意見交換が行われている。年1回、職員の気持ちを聞く会でも、ホーム長との信頼関係が築かれ職員の提案などは運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員と面談する機会を作っている。また、チャレンジシートの内容を職員と共に話し合っ、目標を決めることにより、職員のモチベーションを保てるよう配慮している。評価は職員にフィードバックしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験制度を定め、合格祝い金を支給している。試験対策講習会等を開催することや、勤務上でも出来る限りの配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会の会員となり、同業者との情報交換、研修会、交流会等行っている。 また、社内のグループホーム4ヶ所で勉強会を行ってサービスの質の向上に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、信頼される関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接段階で話を聞き、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎日共に暮らす中で、日常の会話から生活の知恵を教わることや、家事などの不慣れな部分を手伝ってもらう等、共に支え合う関係を構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家に帰りたい、家族に会いたいという思いに 応えて家に外泊することや外食等の外出の機会を持ってきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族と相談しながら支援に努めている。入居後も可能な限り趣味の活動を続けていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の中で自然と構築される入居者同志の関係を重視し、把握するように心がけている。 必要な時は、職員が間に入る等、良い関係が保たれるよう支援に努めている。	本人や家族の意向を尊重し個別に対応している。知人や友人と外食に出かける方や、家族と馴染みの美容室に出かける方もいる。家族や親戚との電話の取り次ぎ、季節の便りなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話を楽しみ、作業を楽しめるような環境づくりに努め、必要に応じて職員が介入できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向を本人に直接尋ねることや、日常の言動に注目して記録に残し、その経過を振り返り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	職員は、日常の会話や表情などから入居者一人ひとりの思いを汲み取り記録している。聞き取り困難な入居者からは入居前の生活歴、趣味などの把握や家族からの意向を参考に、入居者ごとにカンファレンスを行い意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、知人に話を聞き、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、食事や水分摂取状況、バイタル、言動、様子の変化など観察し心身状態の把握に努めている。また定期的に記録を見直し、有する力など現状の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直しの他、毎月(時に随時)入居者に関する話し合いを行い、課題と評価を繰り返している。本人、家族、主治医等と相談しながら現状に即した介護計画を作成している。	計画担当、居室担当、家族のほか関係者も参加して現状から出来ることに着目し、ケアプランの見直しに取り組んでいる。家族にもわかりやすく説明し同意を得ていることが、家族アンケートの結果からもうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に詳細に記録する他、日々の申し送りや会議の際カンファレンスを行い、情報を共有している。個別処遇に関しては一定期間で評価を行い経過観察の必要性を職員間の共通認識としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や入院、退院時などの必要性に応じて勤務形態の変更、居室内の環境整備および居室変更などの柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに毎日行くことで、顔なじみになり自然な交流ができています。地域イベントや町会の催し物に参加している。地域のボランティアも積極的に導入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携のホームクリニック柏との連携している。入居の際家族の同意をもらい契約し、月2回往診、緊急時迅速な連携がとれる環境づくりを心掛けている。	定期的な健康診断や歯科衛生士による口腔ケアの実施など、入居者の健康管理を医療機関と連携しながら行っている。かかりつけ医への受診は家族の希望に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受けている。入居者の様子を伝え適切な対応を相談している。緊急時は随時連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の訪問を行い、状態の把握、情報交換し、退院後十分な情報をホームクリニックに繋げるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する説明を行っている。現在、施設で終末期を迎えた入居者はいないが、サービス計画の説明時など、早い段階から本人、家族と話し合いの場を持ち、事業所としてできることを十分に説明しながら方針を共有できるよう心掛けている。	契約時には、必ず法人の指針を説明し同意を得ている。本人、家族の意向を尊重し医療機関や家族とも連携を図り出来る限りの支援を行う仕組みができています。家族アンケートでは、重度化に向けた不安があるとの声も聞かれているため、家族の意向や要望の把握にむけてさらに努めたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について口頭で伝え、連絡網、救急車要請の仕方を見えるところに表示している。事業所内にAEDが設置されていることもあり、消防署立ち合いのもと定期的の実施訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年3回行っている。運営推進会議で地域に呼びかけ、地域の防災訓練に1回は参加している。	消防署の指導のもとで定期的に避難訓練を行っており、自治会の参加もある。オリジナルの防災用マップと行政からの避難マップを使用して、入居者と一緒に避難場所までの道のりを歩いて確認する取り組みも実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の様々な表現を受け止め、気持ちに合わせた対応をしている。	入居者や家族からの希望があれば、同性介助にも対応している。日々のケアの中では、入居者の人格を尊重し一人ひとりの状況に応じた対応を心がけ、職員間でも気づいた点は注意し合っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望等に応じて個別に話の場を持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の身体状況、精神状態に合わせた過ごし方を個別に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ、化粧をする時、出来ない部分を支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの入居者が出来ること、例えば包丁を使う、盛り付けをする、食器を拭く等、手伝いを依頼している。	食事の準備や片付けは、可能な範囲で無理なく参加していただいている。誕生日には手作りケーキでお祝いし、ちらし寿司や巻きずしを職員と一緒に調理するなど食事を楽しむことができるような支援が盛んに行われている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態にしたり、食が進むよう好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態によっては歯科医に繋げている。また、訪問歯科の協力を得て、対応の難しい入居者の口腔ケアを実践指導してもらうなど、日々の対応の改善にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活の中で本人の排泄状態を把握し、必要に応じた声掛けや誘導を行っている。	排せつチェック表を活用して一人ひとりの排せつパターンを把握し、職員間で共有している。日中は時間を見ながら声かけすることで、トイレでの自然な排せつを促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給、体操や散歩などの運動の機会を作っている。また便秘を防ぐ食物など検討し実行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上入れることを目安にして対応している。入浴時間は本人の状態を決めるように心掛けている。	入浴を楽しんでいただけるように、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯なども取り入れている。入浴拒否がある場合には、時間や職員をかねて声かけをするなど、本人の様子をみながら個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息、就寝時間は本人の希望で行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方されている薬の副作用、効果についてファイルし、常に見ることが出来る場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で同じレクリエーションをするだけでなく、その時の本人の状態に応じたものも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換に散歩を心掛けている。本人の希望でほぼ毎日外出している入居者もいる。少し遠出のピクニックやショッピング、外食なども1~2か月に一度取り入れている。	健康状態や天候を考慮しながら、できるかぎり毎日散歩に出かけ、食材の買い出しも行っている。希望に応じて買い物や外食支援なども取り入れ、地域のレストランへ出かけることもあり、入居者にとって気分転換や楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族との相談の上所持し買い物の支援をするが、現在対象の入居者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば取次などの支援をしている。また携帯電話を所持している入居者には時々電話の状態を確認している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けをや入居者の作品等置いている。また乾燥の時期は加湿器を設置、室温、湿度の調整を随時している。	日中はリビングで過ごす方が多く、ソファや椅子などそれぞれお気に入りのスペースで自由に過ごし、洗濯物を干したり畳んだりなどの家事も行っている。室内は温度と湿度の管理を行い快適な状態に保たれており、冬季は加湿器も設置し感想予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにくつろげるソファがあり、1人ゆったり座って新聞を読んだり、居眠りが出来る環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を置いたり、備え付けのエアコン、照明以外に希望に応じて設置している。	入居者の希望に応じて、部屋の模様替えや片付けなど職員が手伝いながら一緒に行っている。家具なども使い慣れたものがあれば持ってきていただき、自宅と同じように居心地よく過ごしていただけるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の場所であるかを表示し、本人が確認できるようにしている。併設の施設と行き来が自由に行え、同時に危険のないように環境面の整備や職員内で情報を共有している。		